



眞野 和久 議員

小中学校の暑さ対策を急げ

質問

小・中学校へのエアコン・扇風機の設置について、佐織中にエアコンが、佐屋中、立田北部・立田南部小には扇風機が設置されているが、それ以外の小・中学校の普通教室にはそうした措置はない。この状況を放置してはいけない。

教育部長

教室内温度の調査のデータ

分析を含め、今後、前向きに検討していきたい。

質問

温度調査に関しては、中学校の30度を超える教室が、昨年は多いところで、6月8回、7月13回、9月10回ある。今年も6月9回、7月9回ある。早急な検討が求められている。

教育部長

検討時期、計画の具体的な考え方は、
 今度の予算までには何らかの結論を出さなければならぬ

い。設置機種も含めて検討していきたい。

質問

今年度の市消防の熱中症による救急搬送35件のうち25件が65歳以上の高齢者。予防対策として、高齢者の対応はどうなっているか。

福祉部長

生活保護世帯など低所得世帯に対するエアコン設置や電気代補助などの検討としては、
 各地区の民生委員にお願いして、65歳以上のひとり暮らし1千345人と、65歳以上のみ

身近な地域に高齢者サロン拡充を

質問

愛西市では、孤独死が平成20年に5件、平成21年にも5件の孤独死があった。

平成19年度に行った孤独死対策モデル事業で明らかになった具体的な成果や課題は、また、その後の取り組みは、
 高齢者サロンの活動は小地域活動が非常に大事になっている。市も支援を。

福祉部長

異変に気づいても他人の家に入ることに抵抗感がある。病かぎの所在もわからない。病氣時に世話をする人がいない

割合も高く、コミュニティーレベルでの取り組みだけでなく、福祉、医療の連携が必要なるなどが明らかになった。

独居台帳などへかぎを預けている人の追記を進めたり、新聞販売店などの見守りの通報協力もお願いを続けて

いる。

今年度は11月には講演会を行い、傾聴ボランティアも養成していきたい。
 歩いていける地域の中でサロン活動を広げていく方針も、社会福祉協議会と話をしながら進めていきたい。



の高齢者世帯1千965世帯を訪問し、啓発チラシを配布、状態など確認をもらった。
 また、老人福祉センターの張り紙や、健康教室の開催時に啓蒙してもらった。
 電気代の助成は現在のところ考えていない。